

親善の歴史

佐野市は江戸時代、彦根藩の飛地で藩領となっていました。歴史的関係が深いことから、両市のつながりを再認識し、それぞれの郷土の発展につくした先人をしてのび、両市の親善を深めるため、昭和44年8月7日に親善都市の提携を行いました。産業・文化の交流など友好関係を永く継続し、将来の飛躍的發展を願いました。

現在では「小江戸彦根の城まつり」や「さの秀郷まつり」など、観光分野を中心とした交流を行っています。

彦根市の紹介

彦根市は、びわ湖東北部の中心都市です。びわ湖と鈴鹿山系に囲まれた豊かな自然に囲まれた彦根市は、江戸時代に彦根藩30万石の城下町として本格的な歩みを始め、歴史的・文化的な風情を色濃くとどめるとともに、彦根城周辺には、小江戸情緒が漂う夢京橋キャスルロードや、歴史的に井伊家・彦根藩とゆかりのある社寺が多くあり、中世から近世にかけて貴重な歴史遺産が今なお、数多く存在しています。

また、「ひこねの城まつりパレード」では、子ども大行列、彦根らしさを組み入れた彦根町火消し列、一文字笠列など総勢千人による華やかな時代絵巻を2時間にわたり繰り広げられ、圧巻です。



①



②



③



親善都市提携50周年記念特集

彦根と歩んだ50年

①城まつりパレード、②彦根城と桜、③彦根梨(彦根市提供)、④親善都市50周年記念さのまる・ひこにゃんステージ

8月10日、親善都市提携50周年を記念して、記念式典を開催しました。また、両市が双方の地場産業技術を用いた記念品を制作し、交換しました。

佐野市からは本市の伝統工芸品にも指定されているひな人形「鐘しょう甞き」を記念品として寄贈しました。また、彦根市からは、伝統工芸技術を活かし制作していただいた「カロム」をいただきました。昭和50年に仏壇仏具業界では初めての国の伝統工芸品の産地指定を受け、平成25年に「彦根仏壇」として地域団体商標に登録されるなど、我が国を代表する伝統工芸品を制作する伝統工芸士が、仏壇技術を活かし制作したものです。

また、同日開催された「さの秀郷まつり」のメインステージにて、「親善都市50周年記念さのまる・ひこにゃんステージ」が実施されました。ステージでは佐野と彦根に関わるクイズが出題され、参加者には50周年記念ステッカーが配布されました。



カロム (日本カロム協会 提供)

カロムはビリヤードに類似した盤上ゲームです。彦根市では一家に一台カロム盤があると言われるくらいポピュラーなゲームで親しまれており、日本選手権大会も開かれています。またその歴史も古く、彦根市には大正時代に使われていたカロム盤が現存します。



ひこにゃん

彦根藩二代当主である井伊直孝公をお寺の門前で手招きして雷雨から救ったと伝えられる「招き猫」と、井伊軍団のシンボルとも言える赤備え(戦国時代の軍団編成の一種で、あらゆる武具を朱塗りにした部隊編成のこと)の兜を合体させて生まれたキャラクター。



彦根城

国宝に指定されている彦根城。天守をはじめ、重要文化財の各櫓、下屋敷の庭園である玄宮園、内堀・中堀などが当時の姿を留めています。全国的に見てもきわめて保存状態のよい城跡で、年間を通じて多くの人々が訪れます。

彦根市の魅力を紹介!



気象情報を活用して大雨や台風へ備えよう！

■問合せ＝危機管理課 ☎(20)3056

災害から身を守るためには、普段から災害に対する備えを行い、危険を感じたら早めに避難するなど、身を守るための行動を自ら起こすことが重要です。

また、気象庁や栃木県などが発表している最新の気象情報をテレビやラジオ、インターネットなどで入手するよう心掛け、早め早めの行動を取るようにしましょう。

9月5日まで「防災週間」です

各家庭においても「家族防災会議」を行い、家族で防災について話し合う機会を持ちましょう。



防災メールの活用

皆さんが安心して生活できるよう、火災情報や防災情報、気象情報（大雨・暴風・土砂災害・地震など）をパソコンや携帯電話（スマートフォン）にメール配信します。

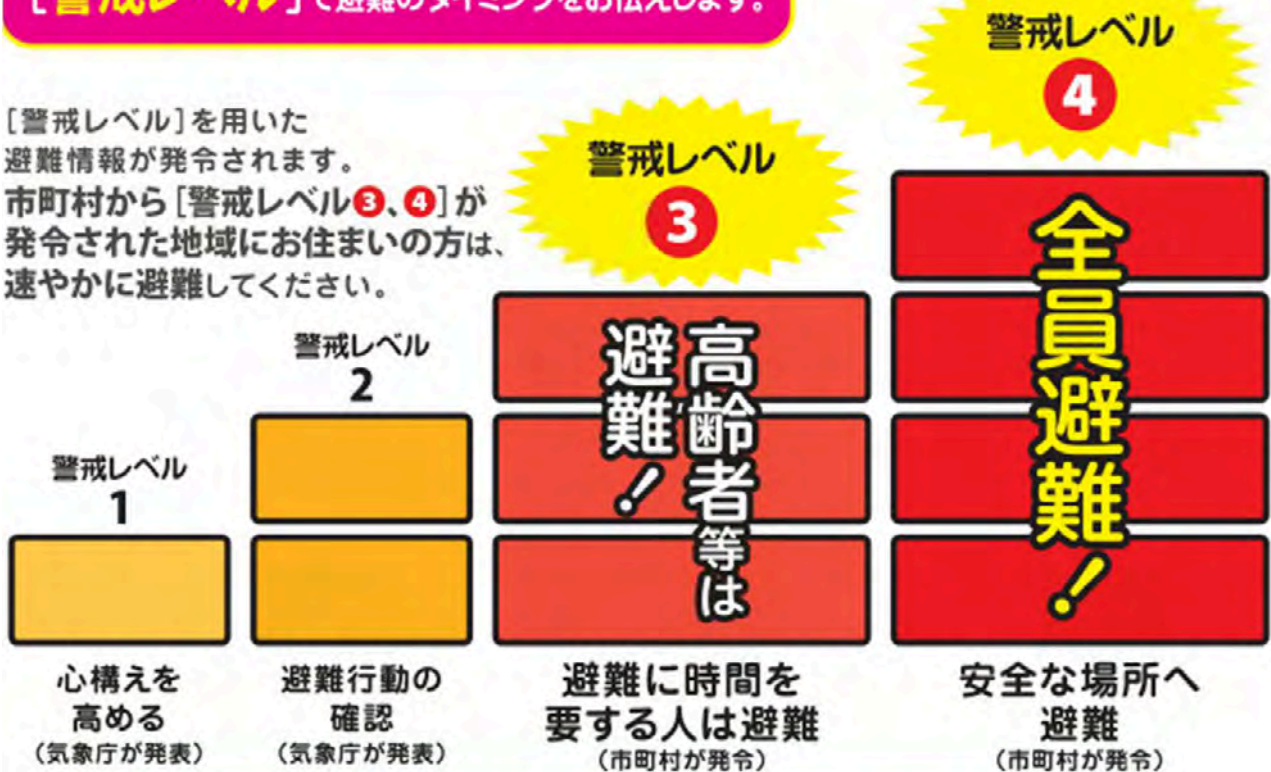
下記のアドレス宛てに空メールを送信し、登録をお願いします。

t-bousai-sano@sg-m.jp ※右のQRコードもご利用下さい



[警戒レベル]で避難のタイミングをお伝えします。

[警戒レベル]を用いた避難情報が発令されます。市町村から[警戒レベル3、4]が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。



[警戒レベル5] (市町村が発令) は既に災害が発生している状況です。

